

## 大学生向け国際協力理解プログラム日程概要案（変更の可能性あり）

日	時間	内容	ねらい
<b>リエンテーション（オンライン）</b>			
8/18(木)	1400-1440	開会 ・参加者の自己紹介 ・プログラムの目的・内容・アウトプット ・JICA事業紹介	プログラムの目的・内容・アウトプットを明確にする。
	1440-1520	海外協力隊 ・協力隊の事業概要 ・プログラムでのアウトプット解説	JICA海外協力隊事業の概要を把握し、海外協力隊経験者の体験談を通じて、現地の状況を理解する。
	1520-1600	多文化共生 ・今なぜJICAが東北で「多文化共生」なのか ・プログラムでのアウトプット解説	「多文化共生と震災復興との関係」と「東北における多文化共生の重要性」を知る。
	1600-1630	事務連絡 ・グループ分け ・グループ内自己紹介及び打合せ	グループワークのためのコミュニケーションを図る。
<b>国際協力理解プログラム（JICA東北で対面式）</b>			
1日目 8/24(水)	0930-1230	・アイスブレイク ・自己紹介 ・プログラムの趣旨説明 ・国際協力を目指す大学生に向けて ・その他	プログラムの目的・内容・アウトプットを明確にする。
	1315-1515	海外協力隊【議論1】 ・現場の課題/ニーズは ・課題/ニーズを解決する活動は ・現地での活動や生活の留意点	実際に派遣されている隊員に関する先方政府からの「要請書」を閲覧し、協力隊が活動する現場でのニーズや課題、生活環境等をイメージする。
	1530-1730	海外協力隊【演習1】 ・現地にいるJICA海外協力隊員とオンライン接続 ・現地の状況把握	実際に協力隊が活動する現地の状況を把握し、【議論1】でイメージしていた現場と実際の現場のギャップ等を発見する。
	1730-1745	振り返り	
2日目 8/25(木)	0930-1230	海外協力隊【演習2】 ・同世代の大学生に向けて協力隊の魅力をアピールするアウトプット作成	同世代に協力隊の魅力を伝え、共感を得るため、1分動画やチラシのアウトプットを作成する。
	1315-1445	多文化共生【議論1】 ・2050年の東北 ・30年前（＝2022年（今））へのアドバイス	30年後の2050年の多文化共生を見つめ、「今（2022年）」の多文化共生を「ジブンゴト」にする。
	1500-1630	多文化共生【演習1】 ・東北在住の外国人との対話 ・【議論1】での発表内容の洗い直し	外国人の体験や要望を知り、より深い理解をもって課題解決を模索する。
	1630-1730	多文化共生【議論2】 ・若者の活躍と挑戦 ・東北の多文化共生、多様な市民応援と「まちづくり」	東北地域の取り組み例を踏まえ、同世代へ多文化共生の重要性を伝えるメッセージを検討する。
	1730-1745	振り返り	
3日目 8/26(金)	0930-1230	多文化共生【演習2】 ・アウトプット作成	同世代に多文化共生の重要性を伝え共感を得るため、1分動画やチラシのアウトプットを作成する。
	1315-1600	・アウトプットの発表 ・全体振り返り ・JICA長期研修員（日本の大学院に留学中）との交流準備	
	1615-1715	JICA長期研修員による報告会聴講	地域理解プログラム（JICA長期研修員が復興の教訓と日本の技術を学ぶプログラム）の報告会を聴講し、東北から何を学んだかを理解する。
	1715-1745	長期研修員との交流 ・JICA長期研修員数名との交流 ・多文化共生の視点で質問	外国人への質問選びや互いに外国語でコミュニケーションすることによる多文化理解の面白さや難しさを実体験する。
	1745-1830	閉会 ・修了証授与 ・全体講評	
<b>フィードバック（オンライン）</b>			
10/15(土)PM	1400-1630	・参加者のプログラムBefore-After、成果の展開状況の発表 ・2023年度に向けたプログラムの改善案の検討 ・JICA東北、各県JICAデスクとの関係構築	プログラムを通じて参加者自身の考えや行動の変容、自身の大学内等でのプログラム成果展開などを振り返る。